

令和4年度（令和3年度事業対象）

東海村教育行政評価報告書

（東海村教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価）

東海村教育委員会

教育行政評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により、「効果的な教育行政を推進し、地域住民への説明責任を果たす」という観点から、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表するものです。

評価については、まず、令和3年度に実施した事業の中から、各課室において課題や改善の必要があると思われる2～3事業を選定し、達成目標とこれまでの経過を確認。その後、どのように運営してきたのか、事業の評価を次年度の施策にいかに関与させるかという視点で自己評価を行い、それをもとに東海村教育委員会事務点検評価委員会において、有識者の方々に評価をしていただきました。

また、今年度から令和3年3月に策定した「東海村教育振興基本計画－とうかい教育プラン2025－」の推進にあたり、毎年度政策ごとに、現状や課題、実施内容を確認・検討しながら取り組み、その成果等について点検及び評価を行うことになっておりますので、併せて評価を行いました。

教育行政を進めるにあたっては、各事業の検証・点検・評価が重要であります。今回も、いくつかの事業において、評価基準の設定や事業の取り組みについて、課題が明確になりました。ご指摘いただいた改善点等については、今後の教育行政の方向性や取り組みに反映し、本村の教育の充実、発展につなげてまいりたいと思います。

2回にわたる東海村教育委員会事務点検評価委員会で、熱心に、慎重なるご審議をいただいた委員の皆様に対し、深く感謝申し上げます。

令和4年9月

東海村教育長 伴 敦夫

東海村の教育理念

教育立村 ～ まちづくりは人づくり 人づくりは教育から ～

「社会全体で子育てするステキなまち“とうかい”」

「村民一人ひとりがキラリ輝くまち“とうかい”」

- 1 確かな学びと豊かな心
- 2 学べる環境づくり
- 3 多様な世代・個性のつながりと交流
- 4 ふるさとを次世代につなぐ
- 5 健全な心と体の育成

【東海村教育振興基本計画 -とうかい教育プラン2025-より】

目 次

I 教育委員会の活動状況

1 教育長と教育委員	・・・	1
2 主な活動内容	・・・	1
3 令和3年度 活動実績	・・・	2
(1) 教育委員会（定例会・臨時会）の開催状況	・・・	2
(2) 教育委員会（定例会・臨時会）の回数・件数	・・・	5
(3) 総合教育会議の参加状況	・・・	5
(4) その他の活動（参加行事・研修会等）	・・・	5
(5) 教育委員の活動所感・意見等	・・・	6

II 東海村教育行政評価の概要

1 趣旨	・・・	10
2 点検及び評価の対象とする事業	・・・	10
3 学識経験者の知見の活用	・・・	10
4 主な経過	・・・	11

III 対象事業の点検・評価

1 評価シートの見方	・・・	12
2 対象事業評価シート		
(1) 小規模特認校の魅力発信について	・・・	14
(2) 学校給食における食物アレルギー対応について	・・・	16
(3) ICT教育推進に関すること	・・・	18
(4) 「とうかいまるごと博物館」実施事業	・・・	19
(5) スポーツきっかけづくり「Be:スポーツ」推進事業に関するこ と（スポーツフェスタ TOKAI2021）	・・・	21
(6) スマホ教室開催（シニアを対象とするスマホ講座）	・・・	22
(7) 図書管理電算機器の入替におけるサービス向上について	・・・	23
(8) 新型コロナ禍により活動が停滞気味である図書館ボランティア活動の推進（活性化）	・・・	24
(9) いじめ問題に関すること	・・・	25
(10) 教育相談及び教育支援に関すること	・・・	27

IV 点検評価委員の総評

【別紙】「東海村教育振興基本計画ーとうかい教育プラン2025ー」点検・評価シート

I 教育委員会の活動状況

教育委員会は、首長から独立した行政委員会として、各都道府県と市区町村等に置かれる合議制の執行機関で、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき運営されており、学校の運営や管理、教育方針、青少年教育等、教育に関する事項について管理・執行しています。

1. 教育長と教育委員

令和4年9月現在

職名	氏名	任期	期数	備考
教育長	伴 敦夫	令和4年1月1日 ～令和6年12月31日	2期	元学校長 元水戸教育事務所長
教育長 職務代理者	藤田 秀美	令和元年11月1日 ～令和5年10月31日	2期	元学校長
委員	高崎あす美	令和2年11月1日 ～令和6年10月31日	2期	保護者
委員	渡辺 克平	令和3年11月1日 ～令和7年10月31日	2期	元副校長
委員	小林 祐子	平成31年3月28日 ～令和4年10月31日	1期	元私立こども園長 元学校長

2. 主な活動内容

教育委員会の会議において、教育行政における重要事項や基本方針等の決定に基づき、教育長が具体的な事務を執行しています。原則として毎月25日に開催する「定例会」及び必要に応じて招集する「臨時会」があります。村長部局との連携を強化するため、年2回程度の総合教育会議に出席し、本村教育の課題やあるべき姿等を共有、意思疎通を図っています。

その他、学校行事（入学式・卒業式・運動会）やその他の教育関連行事への参加、学校訪問等を行い、教育現場の実情を踏まえながら、より良い教育行政を目指し、学校教育や生涯学習など、幅広い施策を展開しています。

3. 令和3年度 活動実績

(1) 教育委員会（定例会・臨時会）の開催状況

区分 (開催日)	種別	提出議題及びその他の報告
令和3年 4月定例会 (4月27日)	専決	○令和2年度東海村立図書館協議会委員の解嘱及び委嘱について
		○東海村教育委員会に対する事務委任及び補助執行について
		○東海村青少年カウンセラー設置規則の制定について
		○東海村教育委員会事務局処務規程の一部を改正する訓令について
		○東海村教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
		○東海村児童生徒就学援助規則の一部を改正する規則について
		○東海村教育支援委員会の委員の委嘱について
		○東海村いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
		○令和3年度東海村立図書館協議会委員の解嘱及び委嘱について
		○東海村文化財保護審議会委員の委嘱について
		○東海村社会教育委員の委嘱について
5月定例会 (5月25日)	専決	○東海村いじめ問題対策委員会委員の委嘱について
		○令和3年第2回東海村議会定例会に付議する教育委員会に係る予算議案の意見聴取について
	議案	○東海村いじめ防止基本方針の一部改正について
		○東海村スポーツ施設条例施行規則の一部を改正する規則について
		○東海村立学校施設の開放に関する規則の一部を改正する規則について
6月定例会 (6月25日)	専決	○校外における学校行事等実施基準の一部を改正する訓令について
		○東海村社会教育委員の委嘱について
		○東海村公民館運営審議会委員の委嘱について
		○電子黒板購入契約の締結に係る議案の意見聴取について

区分 (開催日)	種別	提出議題及びその他の報告
6月定例会 (6月25日)	議案	○東海村歴史と未来の交流館条例施行規則の制定について
		○東海村教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について
		○東海村歴史と未来の交流館運営協議会設置要綱の制定について
	その他	○令和3年度準要保護児童生徒の認定について（非公開）
7月定例会 (7月28日)	議案	○令和4年度小・中学校において使用する教科用図書並びに小・中学校特別支援学級（知的障害）において使用する教科用図書の採択について（非公開）
	その他	○社会教育振興基本計画策定の諮問に係る中間報告について
9月定例会 (9月24日)	専決	○令和3年第3回東海村議会定例会に付議する教育委員会に係る予算議案の意見聴取について
	議案	○東海村立図書館設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について ○令和3年度（令和2年度事業対象）東海村教育行政評価報告書（東海村教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価）について
10月定例会 (10月27日)	専決	○令和3年第3回東海村議会定例会に付議する教育委員会に係る予算議案の意見聴取について
	その他	○令和2年度公益財団法人東海村文化・スポーツ振興財団決算等の報告について
		○東海村教育支援委員会の審議結果について（非公開） ○村立幼稚園再編整備について
11月定例会 (11月19日)	専決	○東海村教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について ○令和3年第4回東海村議会定例会に付議する教育委員会に係る予算議案の意見聴取について
	議案	○東海村スポーツ推進計画の計画期間延長について
12月定例会 (12月24日)	議案	○東海村児童生徒就学援助規則の一部を改正する規則について
	報告	○「東海村子ども読書活動推進計画実施計画」について
	その他	○東海村教育支援委員会の審議結果について（非公開） ○「東海村成人の集いに係る抗原検査等助成金交付要綱」について

区分 (開催日)	種別	提出議題及びその他の報告
令和4年 1月定例会 (1月26日)	議案	○東海村指定文化財指定に関する東海村文化財保護審議会への諮問について
	その他	○寄附の受入れについて
2月定例会 (2月22日)	専決	○令和4年第1回東海村議会定例会に付議する教育委員会に係る予算議案の意見聴取について
	議案	○東海村石神城跡調査整備委員会設置要綱の制定について
		○東海村特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る議案の意見聴取について
		○令和3年度入学準備金支給準要保護児童の認定について (非公開)
	その他	○美術作品(野外彫刻及び稲村退三氏寄贈絵画)の管理・活用方針について
		○文教地区駐車場の整備について
		○東海村教育支援委員会の審議結果について (非公開)
		○県立東海高等学校における学校開放事業の開始について
○成人式の名称について		
3月臨時会 (3月15日)	議案	○教職員の人事異動について (非公開)
3月定例会 (3月23日)	議案	○東海村児童生徒の就学に関する規則の一部を改正する規則について
		○東海村立学校管理規則の一部を改正する規則について
		○学校歯科医の解嘱及び委嘱について
		○令和4年度 教育施設等工事計画の策定について
		○教育委員会事務局職員及び教育機関の職員の人事異動について (非公開)
	その他	○社会教育振興計画の策定に係る社会教育委員会議からの答申について
		○地域部活動の導入検討に係るアンケート調査結果について

(2) 教育委員会（定例会・臨時会）回数・件数

区分	開催回数	教育委員会提出議案等件数			
		選挙	議案	報告・専決	協議
定例会	11回	0件	22件	24件	0件
臨時会	1回	0件	1件	0件	0件
合計	12回	0件	23件	24件	0件

※議案件数等に「その他」は含みません。

(3) 総合教育会議の参加状況

開催日	議題
—	※令和3年度は総合教育会議の開催はありません。

※総合教育会議は学校教育課補助執行事務です。

(4) その他の活動（参加行事・研修会等）

月日	内容	月日	内容
4月1日	教職員等辞令交付伝達式 (新任・転入者)	9月2日	市町村教育委員オンライン協議会
4月7, 8日	村立小学校, 中学校 入学式	10月9, 23, 30日	村立幼稚園, 認定こども園運動会
4月12日	村立幼稚園, 認定こども園 入園式	11月4日	GIGAスクール構想推進プロジェクト授業公開 (石神小学校)
4月17, 18日	村立小学校, 中学校 授業参観	11月17日	研究発表会 (舟石川小学校)
6月2日	茨城県第2採択地区 第1回教科用図書選定協議会	11月20, 25, 28日 12月3, 8, 14日	村立小学校, 中学校 授業参観
5月7日	学校運営推進委員会 (学校長による学校運営方針の説明)	2月3日	立志式
5月23日, 7月3日, 10月23日	村立小学校運動会	2月10日	東海村教育振興大会
6月9, 15, 23日 7月8日	茨城県第2採択地区 第1~4回教科書選定調査部会	3月11日	村立中学校 卒業式
6月24日	GIGAスクール構想推進プロジェクト授業公開 (東海南中学校)	3月12, 17日	村立幼稚園, 認定こども園 卒園式
6月24, 25日, 7月8, 15日	村立小学校, 中学校 授業参観	3月22日	村立小学校 卒業式
7月16日	茨城県第2採択地区 第2回教科用図書選定協議会	3月31日	教職員等辞令交付伝達式 (退職・転出者)
7月23日	歴史と未来の交流館開館式典		

(5) 教育委員の活動所感・意見等

令和4年4月27日聴取

【教育委員の活動について】

- 教育委員会定例会では、事務局・担当者から、資料の事前配布及び当日の丁寧な説明により、分かりやすく意見が述べやすかった。
- 教育委員の活動等の開催回数は妥当である。また、活動日についても、教育委員会定例会の日程と併せて開催することで、効率的にできている。
- 6月の教育委員会定例会を開館前の交流会で開催したことは、大変良かった。どのような姿で披露され、人々を惹きつけるのかがわかり、参考になった。
- 市町村教育委員研究協議会では、Z o o mを用いて全国の教育委員の方々と交流し、情報交換や意見交換を行うことができ、大変貴重な経験となった。

【学校訪問について】

- 学校訪問は、教育現場が実際に抱えている課題等を見聞きする大切な機会であるとともに、受け入れる側も勉強となる大切な事業であると考えている。今後も継続して対応をお願いしたい。
- 石神小学校、東海南中学校でのG I G Aスクール構想推進プロジェクト授業公開、舟石川小学校の外国語教育授業公開は、学校の様子を観て感じることでできる貴重な機会となった。石神小学校、東海南中学校では電子黒板やタブレットを使い始めてから、時間の経過とともに、‘機能に慣れ’、‘機能を使いこなしている’様子を観ることができた。舟石川小学校では、N L Tと担任の先生方が自然な形で連携し、英語での会話の楽しさを子ども達に伝えていた。新しい取り組み（I C T・英語）に舵を切ってから、先生方が研修と授業研究を繰り返し、努力を積み上げてこられた成果だと思う。
- 学校訪問では、コロナ禍にあってもなるべく多くの経験を子どもたちにと努力してくださっている学校や先生方の思いを感じることができた。更なるI C Tの活用も見られ、たくさんの準備や研修の成果を感じることができた。
- G I G Aスクールにおける取り組みを、石神小学校と東海南中学校で参観でき、これからの学習の方向性を見ることができ有意義であった。また、議員の皆様にも参観していただき、いろいろな視野から意見や感想をいただく機会になったことは良かったと思う。

【新型コロナウイルス感染症の影響と学校教育等について】

- コロナ禍により活動の制限があり、学校現場では大変な我慢を強いられたり、不安やストレスを抱えたりした1年だったと思う。それでも、落ち着いた雰囲気の中で教育活動を実践されたのは、教育委員会関係者の支援活動の賜であると感謝する。
- 学校生活を送ることが、コロナ禍で当たり前ではなくなった。子どもたちに「学校生活の楽しみは？」と聞くと、「友だちに会えること」「友だちと〇〇すること」と多くの子が答える。子ども達にとって「なるべく離れて」「話をしないで」という指示は、学校の楽しみとは正反対のものである。そのような中で、先生方の工夫により時期や内容を変更して行われた行事は、例年より短い時間でプログラムの内容も少なくなっているが、“できる喜び”はこれまでにないほど大きかったように感じる。「できて良かったね」という言葉が参加者の間で飛び交っていた。知恵をしぼって子どもたちに楽しく心が躍る体験の機会を設定してくださった先生方に感謝する。
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う臨時休業もあったが、リモート授業により「子どもたちの学びを止めない」ための先生方の取り組みに支えられ、乗り越えることができたと思う。
- 小学校の入学式や卒業式では、今年もコロナ禍のため教育委員からの祝辞はなかったが、児童が主役となり、シンプルで心に残る式となり、大変良かった。

【学校教育分野について】

- 各学校において、GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末、高速通信環境での学習への転換も進んできている。オンライン研修やICT支援員による研修によって、タブレット端末の日常的な活用に向けた教職員の力量の向上育成を図ってほしい。併せて電子黒板などの機器を最大限に活用できるよう適切な対応をお願いしたい。
- 今年度は、十分な感染防止対策を図りながら、様々な活動や行事が再開され始め、子どもたちが生き生きと活動する姿を目にすることができた。子どもたちも一つの目標に向かって先生や友達とともに作り上げていく喜びをあらためて感じる事ができたと思う。今しかできない貴重な体験を少しでも多くさせてあげられることを願う。
- コロナ感染が広がりを見せる中、子どもたちの健康を守りながら、教育活動のあり方を検討しながら実施しているのがよく伝わり安心した。様々なご意見もあったのではないかと思うが、子どもたちとともに考えながら、歩んでいる姿勢は素晴らしいと思う。

- 指導室から報告される、「教育指導行政報告書」は、今年も興味深く読ませていただいた。事業の実施状況や経年変化をふまえ、課題や改善点が見えるようになっている。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大は教育活動にも大きな影響を与え、当たり前を実施してきた事業も様々な制約を受ける結果となった。しかし、教育活動を止めることなく各事業を工夫しながら継続することを前提に進めてきた。今後も感染拡大時に迅速な対応ができる体制づくりと事前準備に努めていただきたい。

【生涯学習分野について】

- 「歴史と未来の交流館」が開館し、様々な活動が展開され、新たな歴史がスタートしたと感じた。楽しみにしている人が多くいることを励みに、これからも工夫を重ねてほしい。
- 「歴史と未来の交流館」が開館し、恵まれた環境の中で体験学習を行うことができるようになったことは、素晴らしいことだと思う。村内外のたくさんの方々に楽しんでいただきたいと思う。そして、東海村の子どもたちや東海村で育った人々が自分の故郷の歴史を知り、未来について考える機会がどんどん増えていくことを願う。
- コロナ禍において「歴史と未来の交流館」の開館が果たせたことは職員をはじめ関係者の努力の結果と評価する。村民の学習拠点として利活用され、より村民に親しまれる施設を目指して、より効果的で積極的なPRに努めてほしい。
- コロナ禍での「歴史と未来の交流館」の開館は、ご苦労が多かったことと思う。現在も企画において感染防止に細心の注意を払ってくださっていることに感謝する。茂木先生のお話をお聴きするために大勢の方々がいらしたことも多くの村民が東海村の歴史に興味をもっている証だと思う。小・中学校との協力関係も順調のようにみえる。児童・生徒は教科書で得た知識を交流館で確認したり、広げたり、深めたりすることができる。これからも子どもたちの興味・関心にタイムリーな対応をしていただきたいと思う。生涯学習課の方々の意気込み「生涯学習課の事業が活性化することは、東海村民が元気になることだ」をととてもうれしい気持ちでお聴きした。
- 石神城跡などの整備計画が確立された。史跡としての重要度、注目度の高い現れであり、認知度の向上と観光資源としての活用を期待する。

【その他】

- 「広報とうかい」に掲載されている幼稚園や保育園で働く先生方を紹介する記事を楽しみに拝見している。先生方の笑顔の写真を観ながら記事を読むと、やさしいお人柄も感じる。入園式や卒園式での子どもたちは、子どもながら式の意味をよく理解し先生と練習したお返事や動作等、一生懸命行っていた。保護者の方々も安心と信頼の気持ちをもって出席されていた。“オンラインを活用し子ども達とのつながりを大切にしたこと”，今年度は十分に実施できなかったと思うが，“若手研修やこ保幼小連携等により子どもたちの発達段階に寄り添った教育・保育をされてきたこと”の成果だと思う。

- 校舎、施設の老朽化に対応するには、全て高額な経費がかかることだけに簡単にはいかないが、長期的な観点から効率のよい整備改善工事の計画を立てていただきたい。子どもの安全に係るような危険個所の修理点検は、何をさておいても真っ先に取り組んでいただきたい。

- 今年度は5人のスクールカウンセラーが配置されたと聞いている。悩みを抱えた子ども達が欲しいと願っているのは、‘相談できる人’，‘話を十分聞いてもらえる時間’，‘落ち着いて相談できる場所’だと思う。悩んでいる自分，登校できない自分を責めてひとりで苦しんでいる子ども達の話聴いて，一緒に考えてくれるスクールカウンセラーの役割に期待している。また，スーパーバイザーとして先生方と協働することで，自分自身をマイナスに評価している子どもたちに自己肯定感と安心をもたらしてくれることも期待する。

- コロナ禍で教職員の負担が増している中，働き方改革の推進にあたっては「教員一人ひとりがこれまでの働き方を見つめ直す」という意識改革も必要であり，意識付け動機付けについて様々な機会を通して取り組んでいくとともに粘り強く様々な角度から改革を進めていく必要がある。

II 東海村教育行政評価の概要

1. 趣旨

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、村のホームページにおいても公表しています。これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務、第25条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検及び評価の対象とする事業の選定

令和3年度実施した分掌事務、組織目標、重点事業、新規事業の中から、課題や改善の必要があると思われる2～3事業を各課室において選定しました。

3. 学識経験者の知見の活用

本評価の客観性を確保するため、内部評価に対し、次の2名の「東海村教育委員会事務点検評価委員」から、対象事業についてのご意見をいただきました。

「東海村教育委員会事務点検評価委員」

- ・横須賀 徹（元法政大学大学院 兼任講師）
- ・池内 耕作（茨城キリスト教大学 教授）

4. 主な経過

開催日	内 容
令和4年 6月28日	○東海村教育委員会6月定例会への説明 教育行政評価の概要（評価方法，様式，対象事務等）
7月22日	○東海村教育委員会事務点検評価委員による，ヒアリングの実施
8月25日	○東海村教育委員会事務点検評価委員による，ヒアリング内容及び 今後の展開方針の確認
9月22日	○東海村教育委員会9月定例会への議案上程及び議決

Ⅲ 対象事業の点検・評価

1. 対象事業評価シートの見方

●項目名

- ・令和3年度に実施した，分掌事務・組織目標・重点事業・新規事業の中から，課題や改善等の必要があると思われる事業を選定しています。

●教育プラン施策目標

- ・対象項目の「東海村教育振興基本計画 2021-2025—とうかい教育プラン2025—」での位置づけで，政策—施策—施策目標の番号です。
なお，教育プランは，2つの基本理念，5の政策，17の施策目標で構成されています。

●目的・内容・対象者

- ・項目に係る業務の目的・具体的な内容・対象者・現在実施している具体的な内容について記載しています。

●予算事業

- ・項目に係る予算事業名です。

●達成目標

- ・自己評価及び外部評価の基礎となる指標です。
なお，基本的に数値目標としていますが，数値に示すことが困難なものは，達成の可否が端的に分かる表現としています。

●実績結果

- ・決算額は，関係する予算事業の総合計額です。
また，その他の実績数値・具体的内容を記載しています。

●自己評価

(1) 点検・評価は，次の観点の基本として行います。

妥 当 性	効 率 性	有 効 性
社会情勢や村民のニーズの観点から，事業を推進する理由が適切であること。	費用対効果が，適正であること。	施策推進のため有効で，期待された効果が得られること。

(2) 評価の基準

評価の3観点を基に、下記の評価の基準で事業を総合評価します。

評 価	評価基準
A	有効な業務・施策を順調に行っている。
B	概ね順調だが、何らかの改善を要する。
C	大幅な見直し、改善を要する。
D	休止・廃止の検討を要する。

●外部評価

- ・点検評価委員2名による、事業に対する成果や課題等の指摘・意見を記載しています。

●今後の展開方針

- ・自己評価及び外部評価を基に、今後の事業展開の方針及びその内容を記載しています。

項目名	小規模特認校の魅力発信について	教育プラン 施策目標	2-4-1	担当課	学校教育課																														
目的	平成30年度から、小規模校ならではの特色をいかした教育を推進する村立照沼小学校を、学区外からでも通学できる「小規模特認校」とした。照沼小学校の魅力を発信し、制度を必要とする方に情報を届けるとともに、より利用しやすい制度とすることを目的とする。																																		
内容	<input type="checkbox"/> 広報とうかいへの特集記事掲載や村内でのチラシ・ポスターの掲示・配布 <input type="checkbox"/> 年長児向け授業体験「オープン照小デー」や学校公開開催に係る周知 <input type="checkbox"/> 新たな広報活動の機会を拡大 <input type="checkbox"/> 小規模特認校利用者(保護者)へのアンケート調査及び制度設計の見直し																																		
対象	特認校制度を利用する子ども及び保護者																																		
予算事業	なし																																		
達成目標	<input type="checkbox"/> 小規模特認校独自の教育の特色を児童・保護者に知ってもらい、制度利用者数を増加させる <input type="checkbox"/> 小規模特認校制度利用児童が楽しく学校生活を送ること																																		
実績評価	●数値資料 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>備考(単位)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>制度新規利用児童数</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>制度利用者総数</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>在校児童数</td> <td>91</td> <td>92</td> <td>96</td> <td>100</td> <td>5月1日現在 人</td> </tr> <tr> <td>制度利用者向けアンケートで「子どもが楽しく通っている」と回答した保護者の割合</td> <td>2/4</td> <td>5/7</td> <td>4/6</td> <td>8/9</td> <td>回答した人数 /アンケートの 回収数</td> </tr> </tbody> </table>					年度	H30	R1	R2	R3	備考(単位)	制度新規利用児童数	5	5	4	6	人	制度利用者総数	5	9	13	17	人	在校児童数	91	92	96	100	5月1日現在 人	制度利用者向けアンケートで「子どもが楽しく通っている」と回答した保護者の割合	2/4	5/7	4/6	8/9	回答した人数 /アンケートの 回収数
	年度	H30	R1	R2	R3	備考(単位)																													
制度新規利用児童数	5	5	4	6	人																														
制度利用者総数	5	9	13	17	人																														
在校児童数	91	92	96	100	5月1日現在 人																														
制度利用者向けアンケートで「子どもが楽しく通っている」と回答した保護者の割合	2/4	5/7	4/6	8/9	回答した人数 /アンケートの 回収数																														
	<input type="checkbox"/> 小規模特認校制度を活用した転入学児童の受け入れは全学年で行っており、小規模校としての特色を維持するため、受け入れ上限人数は、学年単位で最大25名までとしている。 <input type="checkbox"/> 特認校制度を利用している保護者を対象としたアンケート調査を実施し、照沼小学校に通わせてよかったこと・大変なこと・子どもの様子などの意見を自由記述式で聴取している。そのうち子どもの様子として「楽しく通っている」と回答した保護者の数を集計。 ●内容 【広報活動の充実】 <input type="checkbox"/> 広報とうかいの記事掲載や就学時健康診断に合わせたチラシ配布、村内教育施設・商業施設にチラシ・ポスター掲示により、未就学児及び村内児童に広く周知 <input type="checkbox"/> 「小規模特認校制度」を紹介する出前講座のメニューを新規登録 <input type="checkbox"/> 東海村賀詞交歓会で小規模特認校の動画広告を発信 <input type="checkbox"/> 学校公開日(年2回)や年長児向け授業体験(年2回)開催 【制度の見直し・改善】 <input type="checkbox"/> 小規模特認校利用者(保護者)にアンケート調査を実施し、教育委員会・学校で共有 <input type="checkbox"/> 保護者の負担が大きい通学時の送迎について、高学年児童のバス通学を許可する規則改正																																		
自己評価	A	<input type="checkbox"/> 令和3年度は新規制度利用者数の目標を5名と掲げ、結果として新たに6名に利用していただくことができた。 <input type="checkbox"/> 小規模特認校利用保護者にアンケート調査を実施し、保護者の負担が大きい通学時の送迎について、高学年児童のバス通学を許可できるよう、制度を見直し、規則改正を行った。																																	

<p>外部評価</p>	<p>●魅力発信についてという事業名で広報事業という話にまとまっている。広報というより特認校制度というひとつの事業。魅力発信というのは一つの内容。広報はもちろんやる方法だが、広報事業になっているので、大きなひとつの事業として捉えてほしい。</p> <p>●小規模で先生の目の行き届きがいいというだけではなく、小規模校にどういふ特色をつけて発展させていくのか、特色を何にするのかを、地元を含め村内全体の教育の雰囲気などで作り上げていかなくては意味がない。他の学校も一クラスのところもあるだろう。次の段階を含めて考えていかないとならない。</p> <p>●小規模特認校は、学校の統廃合とは別の、もう一つの非常に有利な手段だと思う。次の展開を含めて、統廃合をしないのなら、特色を何に持っていくのか、もう少し鮮明にしていって方がよい。ここがひとつのテストケースで、ここが上手くいけば、次のところでも特色を出せるというつもりでやらないといけない。統廃合で行くのか、特色のある学校で、好きな学校に行かせるようにするのか。そういう時代にどう先駆けるのかというのを考えないといけない。</p>
<p>今後の展開方針</p>	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 </p> <p>●小規模特認校の魅力について、今後も積極的に広報活動を実施する。</p> <p>●小規模特認校の特色について、学校や関係部署と調整しながら検討していくとともに、今後の方向性について、東海村の先進性を追求していく。</p>

項目名	学校給食における食物アレルギー対応について	教育プラン 施策目標	5-2-2	担当課	学校教育課																				
目的	文部科学省の「学校給食における食物アレルギー対応指針」に示されている、『全ての児童生徒が給食時間を安全に、かつ楽しんで過ごせるようにする』という基本的考え方の実現																								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 食物アレルギー調査、個別面談を実施し、個別の給食対応方針を決定。(詳細な献立表対応、弁当対応、除去食対応) ▶ 食物アレルギーに関する授業の実施 ▶ 食物アレルギーに配慮した献立の検討 ▶ 食物アレルギーを持つ児童生徒も食べることができる給食を提供する「より多くの人が食べられる共通献立の日」の実施 ▶ 完全弁当対応者を一部弁当対応者へと対応段階を上げる取り組みの実施 ▶ アレルゲンフリーのデザートを提供 																								
対象	村内小中学校に在籍する食物アレルギーを有する児童生徒及びその家庭																								
予算事業	学校給食食物アレルギー対応事業																								
達成目標	食物アレルギーの有無にかかわらず、多くの児童生徒が給食時間に喜びを感じることができる																								
実績評価	<p>●数値資料 【児童生徒の給食対応方針】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>詳細な献立配布</th> <th>一部弁当</th> <th>完全弁当</th> <th>除去食</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>76人</td> <td>42人</td> <td>3人</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>17人</td> <td>9人</td> <td>0人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>93人</td> <td>51人</td> <td>3人</td> <td>41人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※除去食対応者のうち、個別対応をしている児童生徒数:11人(小学校:9人, 中学校:2人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 個別の給食対応方針を決定するため、学校生活管理指導表に基づき各学校で面談を行い、安全・安心な給食提供を実施した。(小学校:76人, 中学校:17人, 計93人) ▶ 食物アレルギーを有する児童生徒も食べることができる給食を提供する「より多くの人が食べられる共通献立の日」を実施した(11月, 2月)。 ⇒完全弁当対応者のうち、本事業へ参加した人数:2人 ▶ 「より多くの人が食べられる共通献立の日」の複数回実施については、新型コロナウイルス感染症の影響により、課題整理・検討に十分な時間を割くことができず、令和元年度同様に1回のみの開催となった。 ⇒対象児童生徒数:2人(小学校:1人, 中学校:1人) ⇒1か月のうち、3日から5日程度喫食。 ▶ クリスマスのデザートとして、アレルゲンフリーのケーキを提供した。 <p>【アンケート結果】</p> <p>《児童生徒》</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ みんなと同じ給食を食べることができて、とても嬉しかった。 ▶ 同じメニューで良いので、みんなと同じ給食を食べられる日を増やしてほしい。 ▶ 食物アレルギーを有さない児童生徒も、完全弁当対応者と同じ給食を食べられて喜んでた。 <p>《保護者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ お弁当は、できるだけ給食献立と同じようなものを用意するようにしているが、正直とても大変である。たった1日だけでもお弁当を用意しない日ができることはとてもありがたい。 ▶ 子どもが家に帰ってきて、笑顔で給食の話をしていることが嬉しかった。 						詳細な献立配布	一部弁当	完全弁当	除去食	小学校	76人	42人	3人	31人	中学校	17人	9人	0人	10人	合計	93人	51人	3人	41人
	詳細な献立配布	一部弁当	完全弁当	除去食																					
小学校	76人	42人	3人	31人																					
中学校	17人	9人	0人	10人																					
合計	93人	51人	3人	41人																					
自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 完全弁当対応の児童生徒及び保護者へのアンケートを実施した結果、喜びの声を数多く聞くことができた。 ▶ アレルゲンフリーのデザートを提供することで、多くの児童生徒が食することができ、好評を得た。 ▶ 完全弁当対応者を一部弁当対応者へと対応段階を上げる取り組みとして、すべての品目が喫食できる献立の日には給食提供を受けることができるようにしたこと、保護者の負担軽減を図ることができた。 																							

外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ●アレルギーがあることで差別がおきないように、アレルギーは普通のことというのを前提に教えるということが第一段階である。食べられないのがいじめにつながらなくても、差別的な目でその子をみることをないようにしなければいけない。アレルギーは普通のことということをみんなが認識することが大切である。 ●自校給食の最大の強みは、子どもたち一人ひとりの顔がみえて給食が作れるということである。共同調理場と自校給食は持っている意味が違う。アレルギー対応がもっと前に進めるように、栄養教諭などがもっと細かく配慮していくと、かなりの数が一緒に食べられるだろう。ただ、それをどれだけ対応できるか。どこまで細かくチェックしていくか。どこまでやるかという意味で、現場の努力が必要である。 ●家庭から持参したもののほうが親は安心かもしれないが、その子の気持ちベースで考えてみると、自分が持ってきたものでなく、学校から出されたものを食べているという形にしてあげたいという気はする。壁はいろいろあるが、一つひとつやっていっていただければと思う。
今後の展開方針	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 </p> <ul style="list-style-type: none"> ●「より多くの人を食べられる共通献立の日」の複数回実施を継続する。 ●栄養教諭等が献立作成の工夫ができるよう、食物アレルギーの原因食品など児童生徒の状況を的確に把握するよう努める。 ●食物アレルギーを有する児童生徒の気持ちに寄り添えるよう、アンケート等を実施しニーズの把握に努める。 ●アレルギーフリーのデザートを提供する。

項目名	ICT教育推進に関すること		教育プラン 施策目標	2-1-1	担当課	学校教育課																														
目的	<p>▶児童生徒が快適な学習を行えるように、タブレット、電子黒板、デジタル教科書等を整備し、学校現場と連携して活用を図る。</p> <p>▶教務支援システムを導入し、これまで学校ごとに個別に管理していた教職員の校務(出退勤管理等)や児童生徒の情報(成績、学籍、出欠、指導に関する情報等)を統合して、一元管理で効率化を図る。</p>																																			
内容	<p>▶教育用コンピュータの整備</p> <p>▶電子黒板の整備</p> <p>▶校務支援システムの整備</p>																																			
対象	小中学校の児童生徒、小中学校教職員																																			
予算事業	小学校コンピュータ機器整備運用事業、中学校コンピュータ機器整備運用事業																																			
達成目標	<p>▶オンライン学習におけるアンケート結果が、「わかりやすかった」との回答が75%以上</p> <p>▶校務支援システムを導入して教職員の負担軽減につなげる</p>																																			
実績評価	<p>●数値資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>備考(単位)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額</td> <td>54,837</td> <td>61,578</td> <td>238,272</td> <td>200,390</td> <td>単位:千円</td> </tr> <tr> <td>コンピュータ整備数</td> <td>326</td> <td>426</td> <td>3,771</td> <td>3,771</td> <td>単位:台</td> </tr> <tr> <td>電子黒板設置数</td> <td>3</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>184</td> <td>単位:台</td> </tr> <tr> <td>校務支援システム利用数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>56,608</td> <td>183,774</td> <td>単位:件</td> </tr> </tbody> </table> <p>●内容</p> <p>【教育用コンピュータ整備状況】</p> <p>▶平成26年度と令和元年度には、5年賃借で各小中学校のパソコン室へタブレット設置。</p> <p>▶令和2年度にGIGAスクール構想により1人1台のタブレット(3,345台)の整備を実施。</p> <p>【電子黒板の整備状況】</p> <p>▶平成30年度から照沼小学校で、プロジェクター型電子黒板(3台)の実証開始。</p> <p>▶令和元年度に各小学校へ各3台、各中学校へ各4台ずつ液晶ディスプレイ型電子黒板設置。</p> <p>▶令和3年度に各小中学校の普通教室と特別支援教室すべてに電子黒板を設置。</p> <p>【校務支援システム整備状況】</p> <p>▶令和2年9月から供用開始。</p>						年度	H30	R1	R2	R3	備考(単位)	決算額	54,837	61,578	238,272	200,390	単位:千円	コンピュータ整備数	326	426	3,771	3,771	単位:台	電子黒板設置数	3	29	29	184	単位:台	校務支援システム利用数	—	—	56,608	183,774	単位:件
	年度	H30	R1	R2	R3	備考(単位)																														
決算額	54,837	61,578	238,272	200,390	単位:千円																															
コンピュータ整備数	326	426	3,771	3,771	単位:台																															
電子黒板設置数	3	29	29	184	単位:台																															
校務支援システム利用数	—	—	56,608	183,774	単位:件																															
自己評価	A	<p>▶新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、臨時休業時に実施したオンライン学習についてのアンケート結果では、86.7%の児童、67.5%の生徒がオンライン学習は「わかりやすかった」、「まあまあわかりやすかった」と回答している。</p> <p>▶電子黒板を導入したことで、視覚的に示すことができるため、理解を深められたり、興味関心を持って授業に取り組みことができたりという効果があった。</p> <p>▶校務支援システムを導入したことで、出勤簿や出席簿が自動集計され、間違いや時間外の削減が図れたと教員から好評を得ている。</p>																																		
外部評価	<p>●行政だけでなく学校現場もタブレットを使うことでこうならなくてはならないという思想をもってやらないと、今までの繰り返しになってしまう。</p> <p>●タブレットと電子黒板をセットにして授業で活用してやっているということは先進的である。教室の中でいかにICT活用していくかということを考えていってほしい。それをやってみる中で、紙でなくてはいけないものと、ICTの方がいいというものとの組み合わせが出来るはずである。</p> <p>●校務支援システムについて、使えば使うほど負担が増える場合もあるし、スッキリできるということもあるだろう。どの実態に対して、どの部分をシステムに頼るのか、どの部分を人がサポートするのか、そこにかかっている。</p>																																			
今後の展開方針	<p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止</p>																																			
	<p>●ICT活用について、全ての教員がICTを学習や生活のツールとして効果的に活用できるように、定期的に研修会を実施していく。</p> <p>●ICT活用に向け、教科書を含め紙がいいのかデジタルがいいのか組み合わせを検討していく。</p> <p>●校務支援システムの活用について、現場の状況を踏まえ、各学校の使用例を校長会、教頭会、教務主任会等で情報共有を図り教職員の負担軽減になるようにソフトの改良を検討し活用していく。</p>																																			

項目名	「とうかいまるごと博物館」実施事業	教育プラン 施策目標	4-1-1	担当課	生涯学習課																														
目的	38km ² というコンパクトな面積の中に城跡や古墳、海や川など多くの歴史や自然を語るものが存在する東海村の特徴を活かし、村内全域を博物館として捉え、東海村全体をまるごと体験し・遊び・学ぶことで、郷土への理解を促進し、郷土愛を育むとともに、魅力ある地域づくりに寄与する。																																		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 歴史と未来の交流館を拠点に村内住民活動団体や企業などの様々な主体と連携し、講座やフィールドワーク、体験などのプログラムを提供する ▶ 交流館の基幹事業の一つに位置付け、交流館の展示と現地をつなぐツールとしても活用する ▶ 人材育成として、東海村を研究する「東海村歴史と未来の交流館研究員(通称:まる博研究員)」を村内在住・在勤の高校生以上から募集し、養成講座・専門講座を実施するとともに、交流館事業にスタッフとして参加する機会を提供する ▶ 活動実勢や活動成果を「まる博ジャーナル」で周知 																																		
対象	全村民																																		
予算事業	「とうかいまるごと博物館」実施事業																																		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「とうかいまるごと博物館」講座の実施(50講座) ▶ 「東海村歴史と未来の交流館研究員(通称:まる博研究員)」養成講座の実施 																																		
実績評価	●数値資料 ※R2年度は交流館開館準備のため事業規模を縮小して実施。																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">年度</th> <th style="width: 10%;">H30</th> <th style="width: 10%;">R1</th> <th style="width: 10%;">R2</th> <th style="width: 10%;">R3</th> <th style="width: 40%;">備考(単位)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業決算額</td> <td>1,134</td> <td>1,027</td> <td>212</td> <td>1,815</td> <td>単位:千円</td> </tr> <tr> <td>まる博登録講座数</td> <td>52</td> <td>70</td> <td>21</td> <td>77</td> <td>天候不順等により中止となった事業も含む</td> </tr> <tr> <td>まる博講座参加者数</td> <td>2,713</td> <td>3,846</td> <td>386</td> <td>15,410</td> <td>延べ人数</td> </tr> <tr> <td>まる博研究員修了者数</td> <td></td> <td>13</td> <td></td> <td>10</td> <td>H30-R1:第1期 R1-R3:第2期</td> </tr> </tbody> </table>					年度	H30	R1	R2	R3	備考(単位)	事業決算額	1,134	1,027	212	1,815	単位:千円	まる博登録講座数	52	70	21	77	天候不順等により中止となった事業も含む	まる博講座参加者数	2,713	3,846	386	15,410	延べ人数	まる博研究員修了者数		13		10	H30-R1:第1期 R1-R3:第2期
	年度	H30	R1	R2	R3	備考(単位)																													
	事業決算額	1,134	1,027	212	1,815	単位:千円																													
	まる博登録講座数	52	70	21	77	天候不順等により中止となった事業も含む																													
	まる博講座参加者数	2,713	3,846	386	15,410	延べ人数																													
まる博研究員修了者数		13		10	H30-R1:第1期 R1-R3:第2期																														
●内容																																			
▶ 令和3年度まる博講座(主な内容) ※14講座は天候不順等により中止。																																			
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;">交流館主催 37講座 2,315人</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 展示(まる博マルシェ)関連・・・展示storyマルシェ, 脱穀体験, ドングリ拾い, ドングリアート, 月見をしよう, ミニ縄文土器づくり, 勾玉づくり, クリスマスマルシェ, 古墳巡り, アンギン編みでコースターづくりほか 展示解説ツアー(縄文編・自然編・古墳編・古文書編), バックヤードツアー 化石発掘体験 博物館長と歩く植物観察会 7回 開館記念講演会 「彫刻家山崎猛と東海村」「民俗学者藤田稔と東海村」「昆虫研究者廣瀬誠と東海村」 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">まる博ゼミナール6講座(中央公民館主催) 59人</td> <td>東海村のキノコ, 東海村の砂防林の歴史, オオウメガサソウの不思議な生態 ほか</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">協力団体主催 25講座 12,890人</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 東海村の環境調べ隊・・・探鳥会, 磯の生き物観察会, 虫博士, 天体観測会, キノコ観察会, 作って学ぶ「ハニワ」, 石を調べよう J-PARC・・・ハローサイエンス12回, J-PARC施設オンライン公開 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">他課主催 10講座 146人</td> <td>健康増進課・・・すこやかウォーキング5回, 親子でみそ作り体験</td> </tr> </table>					交流館主催 37講座 2,315人	<ul style="list-style-type: none"> 展示(まる博マルシェ)関連・・・展示storyマルシェ, 脱穀体験, ドングリ拾い, ドングリアート, 月見をしよう, ミニ縄文土器づくり, 勾玉づくり, クリスマスマルシェ, 古墳巡り, アンギン編みでコースターづくりほか 展示解説ツアー(縄文編・自然編・古墳編・古文書編), バックヤードツアー 化石発掘体験 博物館長と歩く植物観察会 7回 開館記念講演会 「彫刻家山崎猛と東海村」「民俗学者藤田稔と東海村」「昆虫研究者廣瀬誠と東海村」 	まる博ゼミナール6講座(中央公民館主催) 59人	東海村のキノコ, 東海村の砂防林の歴史, オオウメガサソウの不思議な生態 ほか	協力団体主催 25講座 12,890人	<ul style="list-style-type: none"> 東海村の環境調べ隊・・・探鳥会, 磯の生き物観察会, 虫博士, 天体観測会, キノコ観察会, 作って学ぶ「ハニワ」, 石を調べよう J-PARC・・・ハローサイエンス12回, J-PARC施設オンライン公開 	他課主催 10講座 146人	健康増進課・・・すこやかウォーキング5回, 親子でみそ作り体験																							
交流館主催 37講座 2,315人	<ul style="list-style-type: none"> 展示(まる博マルシェ)関連・・・展示storyマルシェ, 脱穀体験, ドングリ拾い, ドングリアート, 月見をしよう, ミニ縄文土器づくり, 勾玉づくり, クリスマスマルシェ, 古墳巡り, アンギン編みでコースターづくりほか 展示解説ツアー(縄文編・自然編・古墳編・古文書編), バックヤードツアー 化石発掘体験 博物館長と歩く植物観察会 7回 開館記念講演会 「彫刻家山崎猛と東海村」「民俗学者藤田稔と東海村」「昆虫研究者廣瀬誠と東海村」 																																		
まる博ゼミナール6講座(中央公民館主催) 59人	東海村のキノコ, 東海村の砂防林の歴史, オオウメガサソウの不思議な生態 ほか																																		
協力団体主催 25講座 12,890人	<ul style="list-style-type: none"> 東海村の環境調べ隊・・・探鳥会, 磯の生き物観察会, 虫博士, 天体観測会, キノコ観察会, 作って学ぶ「ハニワ」, 石を調べよう J-PARC・・・ハローサイエンス12回, J-PARC施設オンライン公開 																																		
他課主催 10講座 146人	健康増進課・・・すこやかウォーキング5回, 親子でみそ作り体験																																		

	<p>▶第2期まる博研究員養成講座（全19回）</p> <table border="1" data-bbox="316 185 1305 880"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開講式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>【歴史講座】東海村の歴史文化の特徴</td> <td>林 恵子(交流館学芸員)</td> </tr> <tr> <td>【歴史講座】東海村の中世 - 石神城・真崎城 -</td> <td>森木 悠介(交流館文化財専門員)</td> </tr> <tr> <td>【歴史講座】近代・近現代の東海村</td> <td>林 恵子(交流館学芸員)</td> </tr> <tr> <td>【歴史地理講座】地図から見た東海村</td> <td>林 恵子(交流館学芸員)</td> </tr> <tr> <td>【自然講座】東海村の地質</td> <td>菊池 芳文</td> </tr> <tr> <td>【自然講座】村の秋の植物</td> <td>安嶋 隆(交流館博物館長)</td> </tr> <tr> <td>【文化的景観】東海村の文化的景観</td> <td>宮田 裕紀枝</td> </tr> <tr> <td>【ワークショップ】化石整理作業</td> <td>野田 美智子(交流館学芸員)</td> </tr> <tr> <td>【フィールドワーク】地層観察会</td> <td>菊池 芳文</td> </tr> <tr> <td>【フィールドワーク】秋の野草観察会</td> <td>安嶋 隆(交流館博物館長)</td> </tr> <tr> <td>【フィールドワーク】東海村の文化的景観</td> <td>宮田 裕紀枝</td> </tr> <tr> <td>【フィールドワーク】東海村の貝塚と古墳を巡る(真崎編)</td> <td>中泉 雄太(交流館学芸員)</td> </tr> <tr> <td>【フィールドワーク】冬の鳥観察会</td> <td>益子 美由希</td> </tr> <tr> <td>【スキルアップ講座】写真の撮り方講座①②</td> <td>東海村写真連盟</td> </tr> <tr> <td>【スキルアップ講座】伝え方・話し方講座</td> <td>公民館講座</td> </tr> <tr> <td>【スキルアップ講座】魅力的な記事の書き方講座</td> <td>茨城新聞社</td> </tr> <tr> <td>修了式</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>▶「まる博ジャーナルVol.2」刊行，配布</p>	内容	講師	開講式		【歴史講座】東海村の歴史文化の特徴	林 恵子(交流館学芸員)	【歴史講座】東海村の中世 - 石神城・真崎城 -	森木 悠介(交流館文化財専門員)	【歴史講座】近代・近現代の東海村	林 恵子(交流館学芸員)	【歴史地理講座】地図から見た東海村	林 恵子(交流館学芸員)	【自然講座】東海村の地質	菊池 芳文	【自然講座】村の秋の植物	安嶋 隆(交流館博物館長)	【文化的景観】東海村の文化的景観	宮田 裕紀枝	【ワークショップ】化石整理作業	野田 美智子(交流館学芸員)	【フィールドワーク】地層観察会	菊池 芳文	【フィールドワーク】秋の野草観察会	安嶋 隆(交流館博物館長)	【フィールドワーク】東海村の文化的景観	宮田 裕紀枝	【フィールドワーク】東海村の貝塚と古墳を巡る(真崎編)	中泉 雄太(交流館学芸員)	【フィールドワーク】冬の鳥観察会	益子 美由希	【スキルアップ講座】写真の撮り方講座①②	東海村写真連盟	【スキルアップ講座】伝え方・話し方講座	公民館講座	【スキルアップ講座】魅力的な記事の書き方講座	茨城新聞社	修了式	
内容	講師																																						
開講式																																							
【歴史講座】東海村の歴史文化の特徴	林 恵子(交流館学芸員)																																						
【歴史講座】東海村の中世 - 石神城・真崎城 -	森木 悠介(交流館文化財専門員)																																						
【歴史講座】近代・近現代の東海村	林 恵子(交流館学芸員)																																						
【歴史地理講座】地図から見た東海村	林 恵子(交流館学芸員)																																						
【自然講座】東海村の地質	菊池 芳文																																						
【自然講座】村の秋の植物	安嶋 隆(交流館博物館長)																																						
【文化的景観】東海村の文化的景観	宮田 裕紀枝																																						
【ワークショップ】化石整理作業	野田 美智子(交流館学芸員)																																						
【フィールドワーク】地層観察会	菊池 芳文																																						
【フィールドワーク】秋の野草観察会	安嶋 隆(交流館博物館長)																																						
【フィールドワーク】東海村の文化的景観	宮田 裕紀枝																																						
【フィールドワーク】東海村の貝塚と古墳を巡る(真崎編)	中泉 雄太(交流館学芸員)																																						
【フィールドワーク】冬の鳥観察会	益子 美由希																																						
【スキルアップ講座】写真の撮り方講座①②	東海村写真連盟																																						
【スキルアップ講座】伝え方・話し方講座	公民館講座																																						
【スキルアップ講座】魅力的な記事の書き方講座	茨城新聞社																																						
修了式																																							
自己評価	<p>A</p> <p>(取組み・成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶まる博講座は目標値を超えて77講座を企画，63講座を実施。ほぼ半数が他団体(行政内部含む)主催となっており，多様な主体と連携し事業の目的達成に貢献している。 ▶まる博研究員養成講座も予定通り講座を実施し，受講者全員(10名)が第2期生として修了。養成講座に加え，専門講座を2講座開催し，5名が修了。 ▶まる博事業により村内の歴史・自然についての認知度が上がり，郷土愛の醸成に寄与することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶交流館職員のマンパワーも考慮した上での安定した事業展開 ▶事業の情報発信(SNSの効果的な活用など) 																																						
外部評価	<p>●一番知りたいのは，講座を受けられた方がどう感じたかという部分。リピーターが多いのは良い。活動実績や活動成果をまる博ジャーナルで周知すると書いてあるので，中身を見るとすごく成功されていると思う。それを全面に出して，この事業はこういう成果が出たというのを表現していただけたらとても良い。成果があればどんどん謳ってほしい。</p> <p>●館の職員がやるだけでは大変だが，専門に出来る人たちがサポーターになって，学校など様々なところに行き，自分の知っている話ができる場を作っていく。高齢者施設を含め，人を呼んで話を聞きたいような場はたくさんあると思うので，サポーターを増やして，様々なところで話をするようにする。サポーターが新鮮さを持てるのは大事。サポーター達を育てる講座などを持つといいかもしれない。</p> <p>●養成講座への参加者数について，オンラインと実際に足を運んでくれた方の内訳を出しつつ，ここが増えていくということは，絶対成功している証だと思う。リピーターが特に増えているという話で，その人たちがなぜ増えているのかという時に，アンケートなどで満足度が高いと出れば，それは大成功の事業となっていく。そこはしっかり計ってほしい。令和4年の人数目標を立てていないなら，来年から人数の目標は持っていたきたい。交流館が出来たわけなので，令和元年度は上回る基準で設定してほしい。</p>																																						
今後の展開方針	<p><input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止</p> <p>講座の開催を軸に今後も同様に継続して実施していく。事業の目的の達成度(事業参加者の満足度)の確認及び次年度以降の企画に活かすため参加者アンケートを実施したい。また，まる博研究員が定例的に活動する機会をつくることで繋がりを強化しながら引き続き交流館事業開催時のサポーターとしての活動にも協力を依頼していく。講座参加者数については，講座の内容により適切な参加人数の規模が異なるため参加者数ではなく講座数で目標値を設定したところだが，委員のご意見も踏まえ，コロナの影響も鑑みながら令和元年度の参加者数3,846人を超える参加者を目指して企画したい。</p>																																						

項目名	スポーツきっかけづくり「Be:スポーツ」推進事業に関すること (スポーツフェスタTOKAI2021)		教育プラン 施策目標	5-4-1	担当課	生涯学習課																								
目的	東海村スポーツ推進計画(2018-2023)に掲げられた基本理念“スポーツを通して人がつながり、まちが元気になる”ことを目指し、イベントへの参加を通して多くの世代が運動に触れ合い、運動に親しむきっかけをつくとともに、体力向上や健康課題の解決につなげる。																													
内容	<input type="checkbox"/> 子どもや高齢者、障がい者まで、誰でも運動に親しめるメニューを提供する。 <input type="checkbox"/> 3世代体力測定会(スポーツテスト)や多種多様なスポーツ体験・健康づくりブースのほか、本村の特産品である「ほしいも」をテーマにしたリレー形式の完全オリジナルニュースポーツ「イモゾールレー」を実施する。※(公財)東海村文化・スポーツ振興財団と共催 ●イベントプログラムの企画・立案 ●参加団体・スタッフの調整 ●参加者募集 ●イベントの運営(11/23(火祝)) ●参加者アンケート																													
対象	全村民																													
予算事業	小スポーツきっかけづくり「Be:スポーツ」推進事業																													
達成目標	<input type="checkbox"/> 来場者数500名 <input type="checkbox"/> 子どもから大人まで3世代が、運動や健康づくりに取り組むきっかけ作りの場を提供する																													
実績評価	●数値資料 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>499</td> <td>単位:千円</td> </tr> <tr> <td>来場者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>710</td> <td>単位:人</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2,025</td> <td>単位:人</td> </tr> </tbody> </table> ●内容 <input type="checkbox"/> 屋内外でスポーツ体験や健康づくりセミナー等のブースを設置(19種類)。 <input type="checkbox"/> 体力測定会の参加者(一般:95名,高齢者:19名)には測定結果をフィードバック。 【屋内:総合体育館】 <input type="checkbox"/> 体力測定会,ニュースポーツ・パラスポーツ体験,トレーニング体験,ヨガ体験,水戸ヤクルト栄養セミナー,大塚製薬セミナー,体組成測定,減塩レシピ紹介,イモゾールレー 等 【屋外:東海南中学校グラウンド】 <input type="checkbox"/> 50m走タイム測定(走り方講座あり),ソフトボール投げ(投げ方講座あり),ホッケー体験,キック力測定,ジグザグドリブル競争,ノルディックウォーキング 等						年度	H30	R1	R2	R3	備考	決算額	—	—	—	499	単位:千円	来場者数	—	—	—	710	単位:人	参加者数	—	—	—	2,025	単位:人
年度	H30	R1	R2	R3	備考																									
決算額	—	—	—	499	単位:千円																									
来場者数	—	—	—	710	単位:人																									
参加者数	—	—	—	2,025	単位:人																									
自己評価	A	<input type="checkbox"/> 目標の500名に対して約1.4倍(710名)の来場があった。 <input type="checkbox"/> アンケートの結果,回答者(119名)のうち約95%がイベント内容に満足と回答した。 <input type="checkbox"/> イベント参加者の声を受け,スポーツ「習慣化」に向けた新規事業(ニュースポーツ定期講座)の企画・立案に繋げた(R4年度スタート)。																												
外部評価	●イベントに参加した後,どういう風に今後つないでいくか.きっかけだけで終わらないように,どう繋いであげられるか,何か仕込んでいかないといけない。 ●来場者数も満足度も上がっている。一事業としては言うことはない。村全体で大きな話をする時は,村民の健康寿命や,QOLなどというところに資する一つの有効な事業だったという風に結び付けていっていただきたい。今後この人たちが広げていく様々なことを考えると,規模感からいっても700人以上が来てくれるのは大きい。 ●体力測定をやっているが,文科省に絡んだ,村民の体力測定を行っていると思う。そういうものと比較しながら,参加層というのが全国平均と比べてどうなのか,あるいは毎回の参加者はピーターが多く,毎年体力測定値が上がっているなどとし,何かしら実施したことに対し良くなっていくという見える化をしてもらいたい。																													
今後の展開方針	■ 拡充 □ 継続 □ 一部改善 □ 大幅改善 □ 休止・廃止 ●体力測定会の参加者には測定結果(フィジカルレポート)をフィードバックし,全国平均(スポーツ庁公表)との比較を行うことで日常的な運動習慣への意欲喚起を行う(R3から導入済)。 ●きっかけづくりから習慣化への仕掛けとして,R4年度からニュースポーツ体験の定期講座(月1回)を開催する。 ●習慣化からグループ化に向けて,仲間と一緒にスポーツを楽しめるよう,ニーズに応じてスポーツ団体(スポーツ少年団,スポーツ協会加盟団体)等の紹介を行う。また,スポーツフェスタでもスポーツ少年団の紹介・体験会ブースを設ける(R4から実施済)。																													

項目名	スマホ教室開催(シニアを対象とするスマホ講座)	教育プラン 施策目標	3-3-2	担当課	生涯学習課																								
目的	デジタル化の進展が急速に進み、スマホの普及の共に利便性を享受しているが、一方では高齢者年代には携帯電話からスマホに乗り換えたものの、十分に機能を理解しない者が多い。デジタル化の恩恵を十分に受けられない高齢者に対するデジタルデバイドの解決を目指す。																												
内容	<input type="checkbox"/> 業者に委託してスマホ教室を開催する。講義ではなく、受講者が実際にスマホを使って演習する方法で開催する。週に1回4時間で4回で終了する。 <input type="checkbox"/> 丁寧な指導ができるように少数グループとして定員20名とし、アンドロイド利用者とi-Phone利用者とでグループ分けにする。 <input type="checkbox"/> 既存のテキストではなく受託者が作成したオリジナルテキストを作成し、販売店でのマニュアルよりも実践的なテキストを配付。																												
対象	60歳以上の者で、自己のスマホを所有している者																												
予算事業	中央公民館講座開催事業(スマホ教室開催業務委託料)																												
達成目標	<input type="checkbox"/> 受講者のアンケート結果を行い、80%以上の者が「良い」と回答すること																												
実績評価	●数値資料 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決算額</td> <td>—</td> <td>432</td> <td>765</td> <td>1,078</td> <td>単位:千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>PC教室講座の 流用</td> <td>当初495 補正270</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					年度	H30	R1	R2	R3	備考	決算額	—	432	765	1,078	単位:千円			PC教室講座の 流用	当初495 補正270								
	年度	H30	R1	R2	R3	備考																							
決算額	—	432	765	1,078	単位:千円																								
		PC教室講座の 流用	当初495 補正270																										
	●内容 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1st クール</th> <th>2nd クール</th> <th>3rd クール</th> <th>4th クール</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>28</td> <td>22</td> <td></td> <td></td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>83</td> <td>79</td> <td>50</td> <td></td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>101</td> <td>67</td> <td>63</td> <td>36</td> <td>267</td> </tr> </tbody> </table>						1st クール	2nd クール	3rd クール	4th クール	計	R1	28	22			50	R2	83	79	50		212	R3	101	67	63	36	267
	1st クール	2nd クール	3rd クール	4th クール	計																								
R1	28	22			50																								
R2	83	79	50		212																								
R3	101	67	63	36	267																								
自己評価	A	<input type="checkbox"/> アンケートの結果、毎回9割前後の受講者から「良い」と回答した。 <input type="checkbox"/> R1～R3の3年間で180人が講座に参加したことにより、デジタルデバイドの解消を少しでも担うことができた。																											
外部評価	● 世代といっても、高齢化していくのに沿って支援していかなくてはいけないという話とは少し違って、ネットで仕事をした世代と、それがなかった世代とで、大きなデバイドがあり、それが今高齢者のところに来ていると思う。いずれ過ぎ去れば、その後の世代は、説明書がなくても自分でアップデートすることになるだろう。 ● 今、目の前で急いでいる人たちがいる。だからやらなくてはいけない。それはすごく今よくわかる。これだけニーズがあるのは間違いない。使い方を教えてほしいというニーズがある限りは絶対やるべきだと思う。 ● 究極の目標は、だれも説明しなくても触れば使えるということなのだろう。おそらく70代の人たちは、スマホといわず、ネットやPCそのものに触れてない世代。触れていればスマホに入るのは難しい。スマホというより、ネットとは何、メールとは何というところからなのだろう。																												
今後の展開方針	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止																												
	スマホの基本的な操作が苦手な(習熟していない)ことは、特にシニア層の方に関する課題であり、課題が解決するまで地道なサポートを続けていく。また、今後もデジタル化社会へのフォローを進めていく。																												

項目名	図書管理電算機器の入替におけるサービス向上について	教育プラン 施策目標	2-4-2	担当課	図書館																		
目的	図書館サービスの向上及び事務作業の効率UP																						
内容	前回導入時より5年が経過した図書館管理システム及び機器類を更新するにあたり、利用者の利便性の向上を図る。合わせて、職員の事務作業の効率を高める																						
対象	図書館利用者及び職員																						
予算事業	図書館管理運営事業(図書管理電算機器賃借料)																						
達成目標	システム更新による新たなサービス等の導入																						
実績評価	<p>●数値資料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>図書管理電算機器賃借料決算額</td> <td>14,512</td> <td>14,512</td> <td>14,512</td> <td>11,482</td> <td>単位:千円 端数切捨て</td> </tr> <tr> <td>資料貸出数 (図書・雑誌・視聴覚)</td> <td>501,994</td> <td>472,981</td> <td>380,479</td> <td>442,297</td> <td>単位:点</td> </tr> </tbody> </table> <p>●内容</p> <p>令和3年11月から新システム稼働開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶自動貸出機及び検索機設置機を改善した(車いす対応になった)。 ▶館内検索機で検索した結果をレシート出力できるようになった。 ▶館内検索機で検索した資料の場所が画面で地図表示できるようになった。 ▶ホームページでの検索時に、本の表紙が表示されるようになった(表示されないものもある) ▶ホームページ内に「利用者ポータル」を設置。これまでできていた「貸出・予約の確認」、「延長手続き(1回限り、延滞しておらず予約の無いものに限る)」のほか、お気に入りの本を登録したり、図書館で借りた本の履歴を残すことができるようになった。 ▶コピキーを導入し、館内閲覧用PC(インターネット、DVD)の貸出管理作業を効率化した。 ▶移動式ハンディアンテナを導入し、蔵書点検等作業効率のUPを図った(新システムでの蔵書点検は10月のため、まだ未実施)。 <p>※システム入替時に合わせて、資料の貸出期限をすべて15日間(これまでは図書15日間、雑誌・視聴覚は8日間)にした。</p>					年度	H30	R1	R2	R3	備考	図書管理電算機器賃借料決算額	14,512	14,512	14,512	11,482	単位:千円 端数切捨て	資料貸出数 (図書・雑誌・視聴覚)	501,994	472,981	380,479	442,297	単位:点
	年度	H30	R1	R2	R3	備考																	
図書管理電算機器賃借料決算額	14,512	14,512	14,512	11,482	単位:千円 端数切捨て																		
資料貸出数 (図書・雑誌・視聴覚)	501,994	472,981	380,479	442,297	単位:点																		
自己評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 図書館管理システムの更新は定期的に行っているものであるが、今回の更新にあたっては、新型コロナ禍におけるサービス向上も視野に入れて検討をおこなった。館内図表示により、職員との接触が減らせたり、レシート出力により、従来設置していたメモ用ペンの使い回しをなくすことができた。 ▶ 読み込むスピードも速くなったため、カウンター作業の時間が短縮された。 																					
外部評価	<p>●貸出期限について、1回延長が可能で、最大1か月。雑誌や視聴覚は8日でもよいと思うが、普通の本でもボリュームがずいぶん違う。本当にボリュームがあるものは、集中して読む時間がないと1か月でも読み終わらないと思う。</p> <p>●なるべく図書館を利用しやすくすることで、本に馴染みをもってもらいたい。図書館の本はどのラインを維持するかというのはとても難しいと思う。本屋の数も減ってきて、雑誌や流行り本は置いてあるが、それ以外はなかなか置いてもらえない。そういう時代になってきた。図書館の持つ意味は大きくなっている。</p> <p>●これだけのサービスが向上したのは良いことである。村の図書館は見るたびに人が増えており、よく頑張っていると思う。この事業そのものの目標設定でどう成果を出したかというのは難しいだろうが、機械を入れてサービスが向上したが人が減ったという話になれば目標達成したとはならない。利用者数や、貸出冊数につながっていき、年々利用者が増えているとなれば大成功だろう。</p>																						
今後の展開方針	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止																						
	<p>図書館システムについては、概ね5年の頻度で今後も定期的に見直し・更新をしていく。定期的な見直しの他にも、利用者からの求めに応じ、あるいは、担当が使用する上での利便性などから、業者と協議の上で随時手直しをしていく。見直し・手直しなどで利便性が高まったときには、村民その他利用者に対しPRしていき、利用増へと繋げていきたい。また、システムと連動して、新たなデジタルサービスの推進も検討したいと思う。</p>																						

項目名	新型コロナ禍により活動が停滞気味である図書館ボランティア活動の推進(活性化)	教育プラン 施策目標	3-3-2	担当課	図書館																								
目的	新型コロナ禍で活動を制限されている図書館ボランティアのモチベーションの維持及び新たなボランティアの獲得																												
内容	<input type="checkbox"/> 新型コロナ禍においても安心・安全に活動できる環境の整備 <input type="checkbox"/> 研修会・交流会の実施 <input type="checkbox"/> 広報等でのボランティア募集のよびかけ																												
対象	村民																												
予算事業	特になし																												
達成目標	<input type="checkbox"/> 研修会・交流会を各ボランティア(修理・新聞切り抜き・ブックスタート)で1回以上実施する <input type="checkbox"/> 新たなボランティアを獲得する																												
実績評価	●数値資料 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交流会・研修会実施数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>単位:回</td> </tr> <tr> <td>ボランティア新規加入数</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>単位:人</td> </tr> <tr> <td>おはなし会開催数</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>17</td> <td>38</td> <td>単位:回</td> </tr> </tbody> </table>					年度	H30	R1	R2	R3	備考	交流会・研修会実施数	2	2	0	4	単位:回	ボランティア新規加入数	5	10	2	5	単位:人	おはなし会開催数	44	36	17	38	単位:回
	年度	H30	R1	R2	R3	備考																							
交流会・研修会実施数	2	2	0	4	単位:回																								
ボランティア新規加入数	5	10	2	5	単位:人																								
おはなし会開催数	44	36	17	38	単位:回																								
●内容 <input type="checkbox"/> ボランティア活動室(ボランティアルーム)利用におけるルールを設定。 人数制限, 換気, 入室時の記名及び手指の消毒, 使用後の机イス等の消毒 <input type="checkbox"/> おはなし会開催におけるルールを設定。 人数制限, 換気, 参加者及び演者の記名及び手指の消毒, おはなし会終了後の消毒作業 <input type="checkbox"/> 上記ルールを設定するにあたり, 消毒グッズ等を整備 <input type="checkbox"/> 新聞ボランティア交流会(12/22), 修理ボランティア交流会(12/24)を実施 <input type="checkbox"/> ブックスタートボランティア研修会(11/24, 2/25)を実施 <input type="checkbox"/> 案内にボランティア募集の掲出をするほか, 広報とうかい3/10号に新聞切抜ボランティア募集の記事を掲載。掲載後, 問合せ数件, 登録1件。																													
自己評価	B	▶新型コロナ禍で一時中断してしまっていたボランティア活動は, 再開後も, 人数制限があつて集まらないなどの課題がある。その反面, あまり人と接触しなくてもできるボランティア活動である新聞切り抜きボランティアなどは, 周知後に反応があるなど, 村民のボランティアに対する潜在的意欲はあると思われる。 ▶図書館のコンセプトの一つとして「市民参加型の図書館」を掲げており, 図書館ボランティアはその大きな柱である。継続・活性化は今後も取り組むべき課題である。																											
外部評価	● 図書館ボランティアになったら, 冊数が多く借りられるとか希望する本を取ってもらえるとか, なにかメリットがあつてもいいのでは。図書館のボランティアは目的がはっきりしている。本が好きな人が何を望んでいるのか, そこにつながる何かを考えてほしい。例えば図書館に泊まれるとか, そういうことが経験できるなら手伝おうかという気持ちを持ってもらえるのではないかと。 ● ボランティアをされる方は60代以降が大半とのことだが, リタイア後の方は特に, ボランティアをきっかけに図書館に来て, そこでしばらく過ごして帰られる。居場所という意味合いが大きいのだろう。 ● ボランティアはリタイア後の人にとって, 新たなコミュニティや出会いがあるというのは大きい。特に本が好きな人たちで集まりたいというのはお互い話をしていても一番楽しいだろう。その機能も図書館にはあるのかも。そういう人たちが常にいるというのは良いことである。																												
今後の展開方針	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止																												
	図書館と地域との関わりにおいて, また, 図書館サービス向上の一環としても, 図書館ボランティアの存在は欠かせないものである。今後も継続して, 活動の活性化に取り組む。 さらに, ボランティア活動の継続, 新規参加者の獲得の為に, ボランティアに参加する具体的なメリットについても検討・実施していきたい。																												

項目名	いじめ問題に関すること		教育プラン 施策目標	1-4-1	担当課	指導室																																																																															
目的	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 生徒指導の連携・充実を図り、いじめや不登校などの早期発見・早期解決を行う。 ▶ いじめや差別などの様々な人権課題に対する理解と、啓発活動の推進。 																																																																																				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 定期的にいじめアンケートを行い、いじめの早期発見に努める ▶ いじめ問題解決に向け、被害児童生徒、加害児童生徒に対する、継続的な聞き取り調査 ▶ スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールロイヤーなどを活用し、いじめや差別などの人権課題に対する理解を図る ▶ 東海村いじめ問題対策連絡協議会における、中学校区ごとに小中連携した系統性のある支援体制づくり 																																																																																				
対象	小中学校児童生徒及びその保護者、小中学校教職員																																																																																				
予算事業	いじめ問題対策推進事業																																																																																				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ▶ いじめ重大事態発生 0(ゼロ) ▶ R3年度のいじめの認知件数がR2年度の認知件数の10%減 																																																																																				
実績評価	<p>●数値資料【生活に関するアンケートにおいて「いじめられた」と回答した児童生徒数 (人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>調査月</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">小学校</td> <td>6月</td> <td>204</td> <td>78</td> <td>108</td> <td>177</td> <td>206</td> <td>234</td> <td>234</td> <td>133</td> <td>156</td> <td>170</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>170</td> <td>90</td> <td>129</td> <td>153</td> <td>155</td> <td>228</td> <td>200</td> <td>236</td> <td>44</td> <td>156.1</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>170</td> <td>49</td> <td>129</td> <td>132</td> <td>107</td> <td>151</td> <td>153</td> <td>128</td> <td>9</td> <td>114.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中学校</td> <td>6月</td> <td>12</td> <td>30</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>5</td> <td>23</td> <td>15.5</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>19</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>3</td> <td>15.1</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>13</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>14</td> <td>1</td> <td>8.6</td> </tr> </tbody> </table>						調査月	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平均	小学校	6月	204	78	108	177	206	234	234	133	156	170	11月	170	90	129	153	155	228	200	236	44	156.1	3月	170	49	129	132	107	151	153	128	9	114.2	中学校	6月	12	30	13	11	17	14	15	5	23	15.5	11月	13	13	19	15	20	16	19	18	3	15.1	3月	13	7	12	6	10	8	7	14	1	8.6
	調査月	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	平均																																																																										
	小学校	6月	204	78	108	177	206	234	234	133	156	170																																																																									
		11月	170	90	129	153	155	228	200	236	44	156.1																																																																									
		3月	170	49	129	132	107	151	153	128	9	114.2																																																																									
	中学校	6月	12	30	13	11	17	14	15	5	23	15.5																																																																									
		11月	13	13	19	15	20	16	19	18	3	15.1																																																																									
		3月	13	7	12	6	10	8	7	14	1	8.6																																																																									
	●内容																																																																																				
	▶ H30年度から「いじめ認知」の概念が変わったため数値は増加している。																																																																																				
▶ いじめの原因としては、小学校では、「ひやかし」「悪口」が最も多い。中学校では、「仲間はずれ」「無視」が多くなっていて、重大事態に至るケースは、ここ2～3年は、発生していない。																																																																																					
▶ 毎年、いじめアンケートによる調査や教職員による子どもたちの行動観察を継続して行い、いじめの早期発見、早期対応に努めている。																																																																																					
▶ 中学校では、SNS等による誹謗中傷のトラブルが見られる。																																																																																					
▶ いじめ対応については、東海村いじめ防止基本方針に基づき、いじめ対応フローチャートを参考に、対応にあたっている。																																																																																					
▶ 令和3年度は、コロナ禍で学校が臨時休業となったため、11月、3月のいじめ認知件数は、例年に比べ少なくなっている。																																																																																					
▶ SC, SSW, スクールロイヤーを活用し、いじめに対する理解啓発を行った学校がある。																																																																																					
自己評価	<p style="font-size: 2em; text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 令和3年度は、8月後半から9月にかけてコロナウイルス感染防止のため、臨時休校となり、オンラインでの授業となったため、2学期のいじめの認知件数が例年より減少している。 ▶ いじめ対応については、東海村いじめ防止基本方針に基づき、いじめ対応フローチャートを参考に、対応にあたっている。 ▶ いじめを発見したり、相談を受けたりした場合は、当該児童生徒等(被害が疑われる児童生徒)、関係児童生徒等(加害が疑われる児童生徒)から「いじめ」面談調査シートに基づいて聞き取りと記録を行っている。 ▶ R3年度は、いじめの重大事態は確認されなかった。(0%) ▶ R3年度のいじめの認知件数がR2年度の認知件数を大幅に下回った。 小学校 R2 128人 → R2 9人 中学校 R2 14人 → R3 1人 ▶ 一人の児童生徒が、複数の児童生徒に対して、「嫌がること」をしているケースがあり、対応に苦慮している。(発達障がい疑われるケース) 																																																																																				

外部評価	<p>●中学生になるとスマホを持ち，その中でSNSに関わるトラブルが出てくるのだろう。常識的なことをどう植え付けるかということしかない。学校にスマホを持ってきていいわけではないので，それでどういう風にしろというのも難しい。</p> <p>●評価のところ，いじめ重大事態の発生率よりむしろ解消率を出していただきたい。ただその前に何を持って解消率とするかということであろう。</p> <p>●いじめが収まったあとも6ヶ月経過観察し，無事に過ごせたということが，一番いじめの対策として大事なことをきちんとやれたということ。それこそがここに出てこないといけない。少なくとも面談シートに挙がってきたものを分母にした場合の解決率は100%を目指すという目標にしていきたい。</p>
今後の展開方針	<p style="text-align: center;"> <input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 </p> <p>●いじめ解消に向けた取組を重視，面談シートの作成を通して記録をしっかりと残していく。</p> <p>●いじめについては，解消率について評価を行い，どれだけ解消に向けた取組ができたかについて検証していく。</p> <p>●いじめ解消のために取り組んだことをいじめの未然防止に生かせるよう，校内の研修体制整備について学校に助言指導していく。（初期対応に9割の力を注ぐように助言する）</p>

項目名	教育相談及び教育支援に関すること		教育プラン 施策目標	2-3-1	担当課	指導室				
目的	<input type="checkbox"/> 個に応じた教育相談や適切な教育支援を推進する <input type="checkbox"/> 不登校の未然防止に向けた取組を実践することで、不登校児童生徒の削減を図る									
内容	<input type="checkbox"/> 教育支援センターを中心に、個別の教育相談、小集団活動、図書館でのキャリア体験活動。 <input type="checkbox"/> スクールカウンセラーによる児童生徒及び保護者の個別の教育相談、教師への助言・指導。 <input type="checkbox"/> 中学校区内の生徒指導連絡協議会により、小中連携した系統性のある相談・支援。 <input type="checkbox"/> 関係機関が連携した不登校支援体制の構築。									
対象	小中学校児童生徒及びその保護者、小中学校教職員									
予算事業	心の居場所づくり推進事業、スクールカウンセラー配置事業									
達成目標	<input type="checkbox"/> 教育支援センター通級から学校に再登校できるようになった児童生徒の割合の増加(50%以上) <input type="checkbox"/> 中学校における不登校生徒数(教員が1回も会えていない生徒数)の減少									
実績評価	●数値資料【年間30日以上欠席者数の推移】 (人)									
		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
	小学校	16	17	21	10	4	14	23	24	26
	1回も登校できなかった児童数							0	0	1
	中学校	25	35	52	57	43	38	44	41	42
1回も登校できなかった生徒数							0	2	3	
	●内容									
	<input type="checkbox"/> 小中学校とも不登校児童生徒数は微増したものの、ほぼ、横ばいの状況である。 <input type="checkbox"/> コロナ禍もあり、全国的に不登校児童生徒の出現率が増加傾向にあるが、本村において近年見られる傾向として、精神的な理由から人と会うことができず、家から出ることができない児童生徒の出現がうかがえる。 <input type="checkbox"/> 村内の小中学校に県派遣SC2名、村SC3人を配置し、児童生徒や保護者、教職員の心のケアを行っている。SCIに相談した人数は、児童生徒が626人(R2:466人)、保護者が369人(R2:349人)、教職員が715人(R2:728人)(のべ人数)と、教職員以外は、増加している。 <input type="checkbox"/> 不登校児童生徒の学習支援として、タブレットの活用している学校がある。									
自己評価	B	<input type="checkbox"/> 教育支援センター通級者は、前年度に比べ8人増加している(R2:17人→R3:25人)が、再登校できた児童生徒の割合は、微減している(R2:88.2%→R3:76.0%)が、再登校率としては、まずまずの成果と言える。(近年、学校だけの支援では難しいケースもある) <input type="checkbox"/> 引き続き、不登校児童生徒数の減少に向け、不登校の原因と解消に向けた取組について小・中学校が連携していく必要がある。 <input type="checkbox"/> 関係部署と連携し、精神的な理由から人と会うことが困難で、家に引きこもっている児童生徒の安否確認が必要である。								
外部評価	●不登校にもいろいろあり、本人にとっても保護者にとっても不本意な不登校が問題。これを解消しなくてはならないし、これを防止するという言い方を今後はしなければいけない。 ●本人が望んでいるに関わらず、何らかの事情によって登校ができていない子どもたちがいる。その原因がその子にあるのか、学校にあるのか。学校が原因での不登校が一番問題。本人が行きたいのにそういう環境が整っていない。そこが一番の解消ポイント。 ●先生が一回も会えていない状態というのは、何か要望や要求があればしっかり聞きとらないといけないが、特に学校に問題があるわけでもなく、友達が嫌というわけでもなく行けない。そういう理由の場合は医療などの話になってくる。 ●不登校の子もタブレットを使っての授業参加というところは、先生達の技術を上げていかなくてはならない。これからはハイブリット、つまりオンラインと対面の双方向での授業だと思う。機器を上手く使える、その技術をみんなが流通し合い、良い技法を持っている人の事例を広げていくというのが大事である。									
今後の展開方針	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 一部改善 <input type="checkbox"/> 大幅改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止									
	●不登校は、いろいろな要因が考えられる。不登校要因の正確な把握手段を確立するため、正確な要因分析に取り組んでいく。 ●最近では、やむを得ぬ事情があり1回も登校できない児童生徒が増えつつあることを鑑み、不登校の支援として、ICT機器を活用し、教室にいなくても授業が受けられる体制を整備するとともに、学校復帰希望の場合は、復帰のサポートを続ける。 ●教育支援センターと学校をつないで、学習支援ができるような体制整備に努める。									

IV 点検評価委員の総評

池内 耕作（茨城キリスト教大学教授）

今回から「教育プラン」全体が新たに評価対象となり、村全体の教育プランがどのように展開しているのかが、より理解しやすくなった。また、評価対象とする資料の「様式」が、肝心の中身の充実にもかなり影響するよう工夫されており、特に「目標値」「実績率」「達成率」が各年度で比較できるようになったことが大きい。以下、事業レベルの評価を例として用いつつ、考え方を今一度整理しておきたい。

学校教育課所管「小規模特認校の魅力発信について」。「魅力発信」（広報）が「手段」、この手段を通じて成し遂げようとする「目標」が大きく2つ示された。1つは「制度利用者数を増加させる」ことで、結果は目標5名に対して実績6名となり、晴れて目標達成。2つ目の目標は「児童が楽しく学校生活を送ること」。事後、保護者に対してアンケート調査で子どもの様子を聞き、9名中8名が「子どもが楽しく通っている」と回答し、残りの保護者も肯定的な回答（H30年度当初は4名中2名。）。よってこれも目標達成。すなわち、利用人数の点でも質的向上の点でも成功した事業となり、自己評価も（誰が評価しても機械的に）Aであった。この結果を受けて、「当初の目標人数が少なすぎるのでは？」「保護者ではなく児童に聞くべきだったのでは？」と、外部評価委員として難癖をつけることはいくらでも可能だ。そして、（難癖はよくないが）次年度に向けてより良い事業が展開できるよう、厳しい目で意見をつけるのが外部評価委員の役目のはずだが、ここで強調したいのはその点ではない。「**目標をきちんと掲げ、その目標が達成されたのか否かをきちんと測って説明する**」。この単純なことが、上記のようにルーチン化するまで、いったいどれほどの年月を要するのか。本村に限らず全国で、なぜか教育の世界では、いまだに「目標を達成したかどうか」が測られない。より「目的／目標志向」であるべきと思う。

学校教育課所管「学校給食における食物アレルギー対応について」。「食物アレルギーの有無に関わらず多くの児童生徒が給食時間に喜びを感じることができる」ことを目標とし、これを測るアンケート結果が誠に良好であった。アレルギーをもつ当該児童も「みんなと同じ給食を食べることができて、とても嬉しかった」と記した。何よりの成果（目標達成）であろう。

学校教育課所管「ICT教育推進に関すること」。オンライン学習が「わかりやすかった」との回答75%を目標に、電子黒板等の機器充実を図り（手段）、かろうじて目標を

達成（児童 86.7%，生徒 67.5%）。さらに校務支援システムを導入することで（手段）、教職員の負担軽減（目標）を達成し好評を得た。次年度に向けて、「ICT 教育推進」という大きな事業が描く目標として、「わかりやすい」「業務負担軽減」だけで良いのか、目標・指標を検討いただきたい。私見では、ICT 教育を推進する目標は、何よりも「知識・技能の向上」「思考力・判断力・表現力向上」といった Information に関わることと、それ以上に Communication に関わることとの 2 点、つまるところ「学力向上」だと思う。教育関係者以外のためにあえて書けば、学力には、他者と協働しながら主体的に学ぶ態度も含まれる。ICT の C。その意味でも、ICT 推進は学力向上のためにやるのだと思うが、この観点から成果を測る必要はないだろうか。

生涯学習課所管『『とうかいまるごと博物館』実施事業』。これについては、シートだけを見れば、手段を目的化している。例えば「50 講座を実施する」。確かに労力の大きい、しかし大事な事業であるには違いないが、やはり「手段」でしかない。「研究員養成講座の実施」についても同様だ。話を聞けば決してそんなことはないのだが、シートだけを見れば「やりっぱなしで良いのか」との誘いを受けても仕方がない記載となっている。例えば、実施講座数ではなく受講者数を目標にすべきだ。どちらも数値だが意味はまるで異なる。どれだけ多くの講座を開講したところでそれだけでは誰からも賞賛されないが、想定以上の受講者が押し寄せたというのであれば「村民に便益（Outcome）がもたらされた」ということである。加えて、受講者アンケートで満足度が高くなるならより重要な Outcome になる。その結果、自分も研究員になりたいという人が増えればそれも Outcome であろう。目標を書くときの主語は「役場が」ではなく「村民が」にしてほしい。「役場が 50 個の講習を開催する」ではなく、「総計〇〇人以上の村民が講習を受講する」と。ちなみに、そのように目標を描いていればどうなっていたらろう。したり顔で「目標達成！」（述べ 1 万 5 千人超！）と謳えたはずだ。博物館の創設は、初年度に関して言えばそれだけの成果があったということだ。「村民に益をもたらす」ことを念頭に置いているはずなので、当初から記載もしてほしいということだ。この観点から言えば、「Be：スポーツ」推進事業については、「目標 500 名に対して約 1.4 倍（710 名）の来場があった」となっていて、良い。またアンケート集計結果で「約 95% がイベント内容に満足と回答」についても良い（ただし目標にはないので書くべき）。次年度以降の指標として、村全体の「健康寿命」や「QOL」に関する事柄も射程に入れてほしい。「スマホ教室」について満足度を測り、目標 80% に対して 90% 前後から「良い」と評された点は大変良い。

図書館所管「管理電算機の入れ替えにおけるサービス向上について」。まずこの事業タイトルが、手段と目標の双方を端的に表現しており大変良い。目標である「サービス向上」はいささか抽象的ではあるが、「カウンター作業の時間が短縮された」の

は何より村民にとっての便益である。ただし、さすがに「何秒短縮されたのか」まで問うのは滑稽だと思うが、英米の事業予算折衝では労力軽減時間数を明示するのが一般的であることは頭の片隅においていただきたい。役場の説明責任には、滑稽であっても誠意が求められる。私なら時間を測るよりも、利用者の率直な声をたくさんひろって存在証明にするが。一方の「図書館ボランティア活動の推進（活性化）」についても、取り組まれている内容については頭の下がる思いだが、やはり事業としての目標がもう少し明確であるほうが良かった（自己評価 B の理由）。

指導室所管「いじめ問題に関すること」。重大事態ゼロは達成、認知件数前年度比 10%減については達成できなかった。ただちに達成できるものでもなければ、達成したからと言って即座に喜ぶべきことでもないが、事業である以上、掲げた数値目標を厳しく目指すのが筋であり、そうしてはじめて数値に表れない様々な成果についても視点があたるようになる（特に未然防止策の成果はなかなか測れないが何よりも重要）。一方の「教育相談及び教育支援」についても、大きくは不登校に関わる事業となっているが、目標を達成することなく横ばいの状況となっている。「学校が要因となっている不登校」をしっかりと抽出したうえで、その改善努力を地道に遂行していただきたい。

以上、繰り返せば手段の前に、「**目標をきちんと掲げ、その目標が達成されたのか否かをきちんと測って説明しようとする意識**」が普通になってくると、まずもって公費支出に対する村民への説明責任がきちんと果たせるばかりか、「たとえ自己評価 A であっても素直に喜べない、より本質的な課題」への目線が開かれる。特に「いじめ」「不登校」といった社会課題は、まずもって比較的軽度のものから数値的な成果をあげていかなければ、より困難な課題への対応に歩みを進めることが難しい（割れ窓理論）。

横須賀 徹（元法政大学大学院 兼任講師）

2022 年は、誰もが今までの経験知を生かせない年となりました。

2020 年からのコロナウイルスによる社会活動の閉塞に加え、今年の 2 月からウクライナにおけるロシアの侵略による戦争が始まり、経済のグローバルな変化があり。日々、値上げと円安の報道に気の晴れない秋を迎えようとしています。

コロナウイルスに関しては、1918~1920 年のスペイン風邪の死者は、1923 年の関東大震災での死者の 3~5 倍が出たにもかかわらず、見えないパンデミックは、社会や行政の対応も、次に備える考えや方向付けも不明確なものとなり、新たなパンデミックを迎えてしまいました。目に見える震災等の大災害のたびの法律の改正や公共事業等の多額の予算付けと人的資源の動員がなされたことに比べ。

まして、100 年前とは比べ物にならない世界的な人口の移動があり、アフリカ南端で発見された新型の変異ウイルスが 1 週間もたたない間に世界中に広まる時代の中、2 年と言われたパンデミックも 3 年になり 5 年となるかもしれない状況にあります。

このパンデミックは、教育の現場においてもリモート授業等、新しい教育環境を生み出しています。

先の侵略戦争は、当初ブーチン大統領が想定したであろう短期の勝利はどこかに行ってしまう、うまく進まない戦いとなって、本来なら考え直さなければならない状況に追い込まれているにもかかわらず。立場固定に陥って、終わりが見えなくなっています。この立場固定は、自分の信念を正当化する理由を探し、メンツを保ち、個々の決定の有効性を立証しようとする行為です。このことから、根性（情熱と忍耐）の強気＝失敗しかかっている状況や、成功が望めない状況にもかかわらず、固執する愚かな頑固さと英雄と勘違いした粘りによるもので、価値ある撤退はできない状況に入っています。信念でなく価値観による判断はもうできない状況に入っています。それに加え、自分の意志に反する情報を遮断した立場にあります。

この 2 つの変動は、今後の社会のあり方を大きく変える出来事です。経済的な変動よりもっと大きな社会的な変動が次から次と続き、（社会変動は経済変動のように数字に表れないので、報道を含め認識しづらい）考え方を改めて対応しても、全てうまくいくとは想定できません。

ただ、確かに言えることは、パンデミックにおいては、失敗から学ぶこと、すなわち、学びの文化を発展させなければいけないということではないでしょうか。

学びの文化のためにはまず、不安を感じることなく自分の意見を言える文化環境を整えること。次に、説明責任、とくに過程や手順についてのプロセス・アカウンタビリティ、失敗から学ぶ、誤ったら何が起こるのか、不確定要素は何なのか、常にこれら要素を明らかにし、進めることが必要です。

先ほどの侵略戦争から言えることは、思考モードの見直し、自分や現状を疑うこと、こだわり固定観念との別れ。すなわち、発想を変える、思い込みを手放すことです。今の望ましいバイアス（経験知がつくるもの）です。それは、変化を好まない考え方となります。それに対し、短期的には、つまりいたり、後戻りしたり、迂回したりす

る可能性があることを承知の上で、長期的には、新たな答えにたどり着くための前向きな考え方が必要です。

2つのことから次の対応が、必要と考えます。

- ・体制（人的資源を含む）の見直しによる考え方の拡がりを構築すること
- ・情報の多源性による、見直し機会の拡がりの確保
- ・過ちを認めることで、能力を過小評価されることのない環境づくり
- ・建設的な対立による、ニュアンスを認め合う環境づくり

そのためには、教育の社会環境にありがちな、協調性が強く、対立を避ける傾向が変革を妨げているように思われます。

- ・誰も怒らせたくない
- ・口論しても解決しないとの思い
- ・友情を損なわないか
- ・時間の節約との理由

協調性が強調されればされるほど、固定された社会となり、世界から取り残されていくだけです。

そのための提言としては、まず、教育委員会の委員の構成を多様化し、別の視点から各々アプローチで直視し再考することが、まず大事ではないでしょうか。

教育者という立場、元校長という立場ばかりでなく、教育界と違う背景を有する立場からの意見で、相互に立場のニュアンスを認め合いながら、建設的な対立で、東海村の教育環境に向かっていく事が、次の時代を創る意欲につながると考えます。

教育行政評価の内容については、A評価にふさわしい内容となっています。ヒアリングの意見に対する対応も申し分ないように思われます。

個別的には課題を抱えているものと考えますが、評価の対象設定について、今後は、より見える化を図っていく事を期待しています。

各事業を考察する時も、立場固定や協調性を意識しないようにし、どんな変化が、何処で、誰に、起こるのか、それは良い影響ばかりでなく、悪い影響は何が考えられるか、不確定要素は何なのか、などのためのチェックシートを創った上で、各々が作成した個別のシートの議論をする環境が必要と考えます。